

国立研究開発法人森林研究・整備機構の令和3事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	農林水産大臣による令和3年度の総合評価が「A」評価であり、中期計画に対して業務が順調に進捗していると判断されたこと等を踏まえ、評価結果による特段の人事は行わなかった。
----------	---

2. 役員報酬への反映について

役員報酬への反映	農林水産大臣による令和3年度の総合評価が「A」評価であり、中期計画に対して業務が順調に進捗していると判断されたこと等を踏まえ、役員報酬の増減は行わなかった。
----------	--

3. 法人の運営、予算への反映について

大項目	令和3年度における主な指摘事項	令和4及び5年度の運営、予算への反映状況
研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項	(研究開発業務(全体)) 研究開発業務を中心に多数の社会実装につながる成果が認められるが、社会科学的な分野の研究課題についても顕著な成果が得られることを期待する。	社会科学的な分野における研究として、令和4年度は、林業に関わる専門高校の教育内容の実態調査とその結果を踏まえた教科書の執筆、自治体森林行政の実態把握と持続可能な森林管理体制の整備方策の提示などの成果をあげた。また、森林サービス産業に関する研究として、多様な森林空間利用促進のためのアウトリーチ手法に関する3年間（令和5～7年度）の所内プロジェクトを開始することとした。このプロジェクトを足がかりに、より大きな外部資金獲得・研究の進展につながることを目指している。

その他業務運営に関する重要事項	(施設及び設備に関する事項) 研究所施設の老朽化は厳しい状況にあるが、時代のニーズに合わせた研究展開や革新的な研究開発も必要なので、施設の改修や最新機器類の整備など計画的な措置が望まれる。	今中長期計画の施設及び整備に関する計画における研究開発用施設の整備・改修等として次の整備を行った。 ○苗木増産施設整備（関西育種場、九州育種場） エリートツリー等の原種増産を図るため、ミスト散水等により挿し木苗木を高速で増殖する新技術「エアざし」の設備を装備した原種苗木増産用の温室を整備 ○低温貯蔵施設整備（九州育種場） エリートツリー等の穂木や原種苗木を発根率や活着率が最もよい状態で出荷できるように、一定期間低温貯蔵するための施設を整備
------------------------	---	--

		○ビルドインチャンバー更新（研究所） 木質耐震・快適性工学実験棟のビルドインチャンバーが老朽化により温湿度等の制御に不具合を生じていたことから、より生活空間に近い実験環境を再現できる最新式のものに更新 ○きのこ発生室更新（研究所） きのこ遺伝資源開発棟のきのこ発生室が4室のうち2室が故障により利用不可となっており、残り2室についても老朽化が著しかったことから、昼夜を模した温度制御が可能な最新式の発生室に更新 ○木質バイオマス変換新技術研究棟（木の酒研究棟）新築（研究所）
--	--	--

		木の酒の普及に向け、木の酒の飲用における安全性の確認などを行う実証研究のため、温湿度管理や製造機械の自動制御が可能な製造施設を新築（令和4年度の時点では建築途中）
--	--	---